

王の孤独と  
民主主義の  
不都合な真実

20260803

エリー



—



# 目次

|                    |   |
|--------------------|---|
| 要約 . . . . .       | 1 |
| 本文 . . . . .       | 2 |
| 彼へのメッセージ . . . . . | 5 |



## 要約

### 【要約】

絶対的な王を処刑して始まった民主化だが、「何をすべきか」が分からない大衆は行動できず、社会は混乱した。

王の本質は「目的を定め、孤独に決断し続ける戦い」にあり、誰もがその視座を持たなければ民主主義は機能しない。

管理職に依存するのではなく、メンバー側からもリーダーの視点を持ち、組織に貢献する主体性を取り戻す必要がある。

## 本文

### 起

#### ○事実

フランス革命では、絶対的な権力を持つ王家が処刑された。「自由、平等、博愛」が掲げられ、権力者の気分で殺されることも、チャンスがないことも、除け者にされることもない社会を目指した。命じる王さえいなくなれば解決すると考えていた。

#### ○反応

しかし、王を殺しても、理想は実現しなかった。混乱しただけだった。

#### ○認知

王さまは、何もせず、パーティーばかり開いて、遊んで過ごしているようでいて、いろいろやっていたのだ。

#### ○行動

何をしていたのか、理解して、みんなで引き受けなければ、悪政に戻る。だからリーダーの中身を知ろう！

### 承

#### ○事実

歴史を振り返ると、名前の残る名君も少ないが、暴君も少ない。

#### ○反応

多くは、王家に生まれてしまったから、仕方なく帝王学を学び、社交を身につけ、役目を果たしていたのだろう。決断にドキドキして、解決できずに落ち込み、評判を気にする。普通の王がほとんどだった。

#### ○認知

だから、王が賢者に協力を求めて会いに行く話がよくある。自分ではどうにもできないことは、できそうな人を探すしかない。

王は孤独であり、自分より優れた者を見極めるために、社交やスポーツを通じて人間性を見定める必要があった。

○行動

その一つとして、クリケットやカードゲームがある。勝負事は性格が出るからだ。しかし理由を知らない民には、ただ遊んでいるように見えた。

転

○事実

王が倒され、民主化された。

○反応

誰もが、リーダーとして行動する権利を得た。にもかかわらず、行動しない。できないのだ。かつての普通の王さまのように、どうすればいいかわからないからだ。

○認知

目的を定めて、段取りを考え、必要な決断をしていくのがリーダーだ。

目的の大きさが、地位の高さに比例する。

大きな計画を立てられる人は少ない。しかし、一人でない。だから、利害がぶつかり、争うことになる。

つまり、王さまはずっと、自然や人を相手に戦っていたのだ。

結

○事実

目的を定めて、決断して、行動し続けることは、戦いである。

信頼できる人間を集め、問題解決に向かって結束する。

人事は計画実現の要である。

管理職なら誰でも知っている。

○反応

組織のトップである王にも、個人の側面はある。

ならばあなたに目的はあるだろうか？

将来の計画や夢は？

世界規模の目的は無理でも、家庭規模ならあるだろうか？

○認知

指示される仕事について、家事も家族に任せている場合、目的を考えなくても生きていける。必然的に、実現に必要な知識を求めることはない。その結果、やりたいこと、やりやすいことに人があつまり、本当に必要とされる能力を身につけた人材が不足する。

つまり民主化とは、リーダー目線で、メンバーである自分を見て、組織に貢献することである。リーダーの役割を知らずにスキルだけ磨いても役に立たない。

ところが、管理職がメンバーを観察して、配慮するのが当世の風潮である。

だが「リーダーが何をしていて、どんなことが起きて、何をしてほしいのか？」をメンバー側からも返さないと、主権を持つ民主的な組織にはなり得ない。

#### ○行動

「自分ができないことを、託している」は、王が賢者に頼ることも、国民が政治家に頼ることも同じである。お願いする側が頭を下げるものである。

「リーダーに決めていただく」という感謝の意識が不可欠であり、「お手並み拝見」と上から目線で批判すれば、民を差別したかつての暴君と変わらないと思わない？

## 彼へのメッセージ

「否定よりも肯定を！」と、批判する彼に疑問を投げ掛け、反論した真意をまとめた。

彼は同意したが、やっていることはずっと否定や批判で、目的不明だった。

わたしは彼を手伝いたかったが、虚弱体質は治らないと知り、自分がやりたいことをすることにした。

旅人としてフラフラ生きるのは無理だから。国という組織に頼るしかない。ならば組織を知ろう！ の結論エッセイ。

ああ、その時の気分で、無計画に気ままに生きることがしたかったのね。

それは野宿できる丈夫な体があってこそ可能な生き方。

事前準備なしに動けないわたしには無理だ。予定が無事に終わることを祈りながら生きているから。

わたしは基本的に「そこがいいね！」と肯定して続けてもらう。

「それはわるい」と批判や非難をする性質そのものは変えられない。

よいはやることが明確だが、悪いは「ではなにをするのか？」が問われる。ぶつかり合いを極めることこそが自分を生かすことではないか。

当然、「いいね」と言ってくる相手に、「悪いね」と返せば距離を置かれる。生き方が合わないからだ。

同じく「悪いね」と返してくる相手と言い争うことになる。

対立してても冷静こそが、極める道ではないか。

状況や性質が違いすぎて、同じ道を生きることはできなかった。

しかし、確かに最初の問いかけをしたのは彼であり、自由について真剣に考えた結果、わたしは自分の意見を持った。

問いかけたことに意味はあった。だから、これからも問いかけ続けてほしい。



---

王の孤独と民主主義の不都合な真実 20260803

---

著 者 ELYE

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---